

カバジタキセル療法【 】コース目を受ける患者さんへ

傷病名： 前立腺癌

【患者さん用クリニカルパス】

ID : _____ 患者氏名 : _____ 様 症状 : _____ 東・西 _____ 病棟 _____ 号室 _____

日付	月 日（ ）	月 日（ ）	月 日（ ）～ 月 日（ ）	月 日（ ）	
経過	入院当日	化学療法施行日	化学療法施行中～退院日	退院日	
達成目標	治療の経過がわかる。	予定通りに治療が終了する。 症状出現時適切な対処が受けられる。	予定通りに治療が終了する。 症状出現時適切な対処が受けられる。	退院指導の内容がわかる。	
検査	入院後、血液検査を行います。 		抗癌剤投与2日目に血液検査をします。 骨髄抑制（白血球減少、貧血血小板減少）の有無を確認します。 骨髄抑制が許容範囲内であれば退院となります。		
治療 ・ 処置	入院時、処置は特にありません。	抗癌剤は、前立腺癌に効果があるカバジタキセルというお薬を使用します。 以下、治療スケジュールです。 			
		①30分	デキサート、グラニセトロンという吐き気止めの点滴をします。		
		②1時間	カバジタキセルという抗癌剤の点滴をします。		
		③30分	生理食塩水の点滴をします。		
			《抗癌剤の発症時期による症状と対処方法について》 【投与直後～数時間】 発疹、発赤などのアレルギー症状 →抗アレルギー薬を投与します。 【投与から1～2日後】 吐き気、食欲不振など →吐き気止めの注射、内服薬の投与をします。 【投与から数日間経過してから】 白血球減少 →G-CSF製剤（白血球を増やす薬）を注射します。採血データによって退院が延期となる場合があります。 貧血 →輸血（頻度は稀です） 味覚の変化 →味付けの工夫、うがいなど 		
説明 ・ 指導	入院生活について説明します。 薬剤師より化学療法の薬剤について説明します。 予測される副作用および予防法・出現時の対処方法について説明があります。	点滴中、針の入っているところが痛くなったり、腫れたり、重苦しくなったらすぐに教えてください。 吐き気強い場合は、すぐに教えてください。症状により点滴や注射をして症状の改善を図ります。 尿量が少ない場合は、必要に応じて利尿剤の投与を行います。		退院指導（生活指導や次回再診日の連絡）を行います。 抵抗力が弱っているので、退院後も感染予防（手洗い・うがい）が必要です。発熱などの症状があればすぐに外来へ連絡し、受診の相談をしてください。	
内服 ・ 点滴	現在飲んでいる内服薬の確認をします。 常用薬は基本的に継続とします。				
食事	基礎疾患（高血圧・糖尿病）に応じて、治療食をお出しすることがあります。	吐き気が出ることがあります。食事内容を変更したいときはお申し出ください。 			
生活 ・ 行動	自由に歩いてかまいません。	特に行動制限はありません。 白血球が減少すると抵抗力が弱くなるため、人混みは避け、うがい・手洗いをしっかりと行い感染に注意してください。 血液データに応じて日常生活の制限がある場合があります。		退院手続きが完了するまで、病室でお待ちください。	
清潔	シャワー浴ができます。	抗癌剤投与時以外はシャワー浴ができます。 		退院後は入浴できます。	
その他	入院後に熱が出た場合は、化学療法を延期して一旦退院していただくこともあります。 入院に付きそいは必要ありません。	抗癌剤点滴開始初期（特に10分以内）に発疹や顔が赤くなってほてるなどのアレルギー症状が現れることがあります。 ほとんどは一時的なもので治まりますが、症状が出現した場合は申し出てください。 			

注) 予定は現時点で考えられるものであり、今後検査等を進めていくに従って変わることがあります。

岩手医科大学附属病院

泌尿器科